

Course number		U-LAS70 10001 SJ50					
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：科学技術を考える - 人文学の視点から		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Research in Humanities Associate Professor, SETOYUCHI AKIHISA			
	ILAS Seminar :Thinking Science and Technology - Perspective from Humanities						
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1	
Class style	seminar (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・First semester		Quota (Freshman)	8 (8)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Wed.5	
Classroom	Seminar room 3 (room 330), Institute for Research in Humanities Main Bldg. (Main Campus)				Language of instruction	Japanese	
Keyword	科学技術史 / 機械と人間						
[Overview and purpose of the course]							
<p>現代社会では、身の回りのあらゆるところに機械が浸透している。それは発電所や鉄道のような巨大な技術システムから、家電製品やスマートフォンのような身近な技術まで広範囲に及ぶ。最近では人工知能の発達で人間を追い越してしまうシンギュラリティーの到来が恐れられている。</p> <p>だが機械が人間を変えてしまうのではないかとこの恐怖は、技術の歴史を通して何度も経験されてきた。このセミナーでは、科学技術の歴史から、機械と人間の関係について考えてみたい。</p> <p>読んでいくテキストは、ルイス・マンフォード『技術と文明』（1934年）である。マンフォードは20世紀を代表する技術史家で、技術文明のなかでの人間のあり方を問う著作を多く発表している。『技術と文明』は、西洋文明のなかでの千年にわたる技術史を俯瞰して現在を位置づけようとした著作である。</p>							
[Course objectives]							
<ul style="list-style-type: none"> - 一冊のテキストを読みきって理解する。 - 人文学的な文章を読み解いて、論理的に表現できるようになる。 							
[Course schedule and contents)]							
<p>第1回 ガイダンス セミナーの概要、進め方について説明する。</p> <p>第2回～第14回 『技術と文明』を1章ずつ読み進めていく。 参加者による内容紹介、内容の確認の議論という形式で進めていく。目次は以下の通り。</p> <p>第1章 文化的準備 第2章 機械化の推進者 第3章 原技術期 第4章 旧技術期 第5章 新技術期 第6章 補整と転換 第7章 機械の同化 第8章 正しい方向へ</p>							
<div>Continue to ILASセミナー：科学技術を考える - 人文学の視点から(2)</div>							

ILASセミナー : 科学技術を考える - 人文学の視点から(2)

第15回フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

- 出席と授業中の報告 (60点)
- 課題レポート (40点)

[Textbooks]

Instructed during class

[Study outside of class (preparation and review)]

- 参加者はテキストを読んてくる。
- 発表者はレジュメを作成する。

[Other information (office hours, etc.)]